

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書が身近な読書活動の一つとして活用されることを目指して

横浜市立上菅田特別支援学校

黒沢 千瑛美

はじめに

本校は、肢体不自由のある小学部から高等部までの児童・生徒が在籍する特別支援学校で、現在226名が在籍しています。自立活動を主体とした教育を行っている子どもから、おもに知的代替の学習に取り組んでいる子ども、教科学習を行っている子どもまで、発達段階はさまざまです。

昨年度は、高等部に在籍する子どものうち、知的障害特別支援学校の教育課程を適用して教育を行う子どもたちを対象に、一斉授業の中でマルチメディアDAISY図書を活用する授業を中心に研究を行いました。

今年度は、小学部のクラスでの集団授業や、子どもの実態に合わせた課題学習の時間に個別または小人数でマルチメディアDAISY図書を活用した授業を中心にご報告します。

活用の実際

(1) 昨年度の実態

昨年度は、各クラスにCD版のマル

チメディアDAISY図書を配布し、利用したいときに教室置きのパソコンで使えるようにしました。

また、職員会議などの機会にマルチメディアDAISY図書について周知してきましたが、なかなか利用が伸びませんでした。考えられる理由としては、本校の図書利用は絵本とDVDが多く、主に図書室や教室での読み聞かせなどに用いられていることが挙げられます。

絵本での読み聞かせは、子どもたちの表情の変化を見ながら読み進められる利点があります。また、一人ひとりの障害や環境の状況によっては、子どもから手を放したり目を離したりすることができないこともあり、軽くて気軽に読み聞かせできる絵本などは活用の機会が多いのだと考えられます。

(2) 今年度の取り組み

昨年度の実態をふまえ、より気軽に利用しやすいと考えられるiPad版のマルチメディアDAISY図書をお借りし、寄贈していただいたCD版と併用して

今年度は研究を行いました。iPadは1台を図書室に常時置いておき、絵本などと同様に自由に図書室で利用し、見聞きできる環境作りをしました。

また、より多くの児童・生徒、教員がマルチメディアDAISY図書に触れて活用できるように、2台のiPadを約1週間交代で小学部から高等部までのすべての学年で体験する期間を設けました。

①図書室での活用

図書室のiPad版マルチメディアDAISY図書は、はじめ利用者がほとんどおらず、iPad自体に興味がある子どもたちや、教員に勧められてなんとなく触れてみる子どもたちが数名見られる状況でした。

しかし、学年での体験週間でiPad版マルチメディアDAISY図書を利用した子どもたちが興味をもつことで図書室での利用につながっていき、現在は月に10名前後利用されるようになりました。



図書室の貸出カウンターの隣にある学習機の一角に、斜面台に載せたiPadを常時置き、誰でも利用できるようにしてある

②課題学習での活用1

・小学部4年 男児2名

『ピン・ポン・バス』を使用

小学部には、「国語・算数・課題学習」という授業があります。この授業では、教科書を使って国語や算数の学習をする子どもや、実態に合わせた教材を用いて平仮名や漢字、数字、形などの学習をする子ども、物をつかむ、色を塗るなどの手指操作の向上を目標にした学習をする子どもなど、個に応じた課題に取り組んでいます。

また、教員と1対1の個別で行うこともあれば、2・3名の小集団やクラス単位での集団で行うこともあります。

この子どもたちは、平仮名を正確に読み取ることは難しいですが、気になる本があるときは、大人に読んでもらい内容を楽しむことができる段階です。

今回題材に選んだ『ピン・ポン・バス』は、教員が以前大型絵本で読み聞かせをしたことがあり、子どもの好きな内容でした。見聞きした経験があることや、聞き取りやすい速さの読み方のため、最後まで集中して見聞きすることができました。

また、iPad版のマルチメディアDAISY図書を使うことで、教員を介さずに友だち同士で読書を楽しむこともできました。



高さを調節できる長机に斜面台を置き、そこにiPadを載せて使用

③課題学習での活用2

・高等部そうごうコース2年 女子1名
『ぐりとぐら』を使用

高等部は、生徒の実態に応じて教科コース・すてっぷコース・そうごうコースの3つに分かれて学習しています。コースは縦割りのため、集団で行う授業では1年生から3年生までの生徒と一緒に学んでいます。

この生徒は、話の内容を理解して絵本を見聞きすることは難しいですが、教員が読む絵本の絵を見たり、抑揚をつけて話す言葉を聞いたりすることに楽しみを感じている様子がかがえしました。

また、この生徒は定期的に座位姿勢で過ごす必要があり、個別課題に取り組める課題学習の時間に取り組んでいました。

そこで、課題学習の時間に、エアレックスマットに長座姿勢で座った状態で、iPad版のマルチメディアDAISY

図書を試すことにしました。『ぐりとぐら』の話を楽しむことは難しかったのですが、音声をよく聞いていて、画面が変化するたびに興味をもってiPadに目を向け、物語が終わるまで集中して見ていました。今後、3分程度の短い読み物が増えると、座位姿勢時の過ごし方の楽しみとして繰り返し活用することが期待できると感じられました。

④集団授業での活用

・小学部4年1組 男児5名・女児6名
『ピン・ポン・バス』を使用

小学部4年生では、週に1度クラス単位での集団課題に取り組んでいます。この学習では、友だちを意識して一緒に楽しく学ぶことをねらいとし、「いろおに」や「かくれんぼ」などの遊びや、大型絵本やパネルシアター等での絵本の読み聞かせ、トランポリンなどの遊具体験などさまざまなことを行っています。

実態としては、ひらがなをだいたい判別できる子どもが3名ほどいます。物語の内容を理解することは難しい子どもも複数いますが、繰り返し見聞きしたことがある話や、教員の抑揚のついた話し方、鮮やかな絵に興味をもち、どの子どもも短い読み物を楽しめることができます。

11名の集団が対象のため、CD版の

マルチメディアDAISY図書をパソコンに入れてテレビにつなげることで、大画面で絵本を見聞きできるようにしました。最後まで集中して楽しめた子どもも数名いましたが、大多数の子どもが途中で集中力が切れ、興味をもてなくなることが現状でした。

教員が読み進める場合は、子どもの様子を見ながら抑揚や話の間、効果音などを工夫できますが、その点に関してはDAISY図書では難しいのが実際です。実態の異なる集団で絵本を楽しむ場合には、個の表情を見ながら扱える教材のほうが、子どもの心に残る読書活動につながりやすいと感じました。



テレビ画面で物語を見聞きしている様子

おわりに

教員の認知度や使用状況を知るために、「マルチメディアDAISY図書活用アンケート」を実施しました。その結果、「マルチメディアDAISY図書」という名前を聞いたことがある教員はおよそ7割で、実際に活用したことがある教員は2割弱という現状がわかりました。昨年度に比べると、本校の教員の中にも、少しずつマルチメディアDAISY図書の存在が広まってきましたが、実際に活用するまでにはなかなか至っていません。

今後、マルチメディアDAISY図書が身近な読書活動の一つとして活用されていくようになるには、子どもたちに馴染みのある短めの読み物、物語、小学校の国語の教科書の題材などが増えると使い道が広がると考えられます。

来年度は、図書室や教室などの身近な場所に、iPad版のマルチメディアDAISY図書を常に置いて、いつでも自由に利用できるような環境作りに取り組みます。また、電子機器に対する教員の苦手意識などの改善を図り、マルチメディアDAISY図書の研修会を行い、少しずつですが、活用状況が活性化されることを目指していきます。